

## 令和元年度 第1回阪南市地域公共交通会議 会議録

【開催日時】平成31年4月2日（火）午後3時00分から開催

【開催場所】阪南市商工会館 3階 研修室

【出席委員】委員25名中、23名の出席の下、開催した。

渡部 秀樹、森貞 孝一、中出 篤、宍道 厚治、松下 芳伸、池側 忠司、阪部 光雄、芝辻 徹、秋元 克之、尾原 健一、中野 崇、藤原 鋭、後藤 孝行、小森 成人、日野 泰雄、伊勢 昇、神田 邦彦、岡本 昌宏、堀内 良子、松浦 タケ子、竹若 博美、西浦 日出彰、植澤 徹也

（以上委員23名）

【欠席委員】原 利恵子、奥野 英俊

【代理出席者】無

【傍聴者】2名

### 【案 件】

- (1) 会長の選出について
- (2) 会議及び会議録の公開、会議の告知状況について
- (3) 協議会設置に係る経過及び阪南市地域公共交通会議の概要について
- (4) 規約・諸規程の制定について
- (5) 役員の選出について
- (6) 平成31年度阪南市地域公共交通会議予算（案）について
- (7) 阪南市の公共交通等の現状について

### 【結 果】

- ・本協議会の会長に、渡部委員が選出された。
- ・会議及び会議録の公開について、承認を得た。
- ・本協議会の副会長に、日野委員が選出された。
- ・本協議会の監事に秋元委員、西浦委員が選出された。
- ・各協議会規程について、承認を得た。
- ・平成31年度阪南市地域公共交通会議予算（案）について承認を得た。

【質疑応答】

・ 阪南市の公共交通等の現状について

(委員) 今後の会議で地域公共交通網形成計画の方向性は出すということか。

(事務局) 阪南市公共交通基本計画を策定したことにより、地域公共交通網形成計画策定に必要となるビジョンの部分はできているものと考えている。次回以降の会議で今後取り組むべき事項を議論し、パブリックコメント手続のうえ、年度末に地域公共交通網形成計画の策定を予定している。

(会長) 本協議会は市民の方や交通事業者等、色々な立場の方には出席いただいている。これから本協議会を進めるにあたりそれぞれの見地からご意見等をいただきたいと考えるがいかがか。

(委員) 私も電車を利用し通勤しており、公共交通に関しては非常に関心の高い内容である。しかし、計画策定を進めるにあたり、私のような者だけでなく、もっとふさわしい方が委員であっても良いのではと感じた。

(事務局) 地域公共交通網形成計画の策定を進めるにあたり、法の趣旨に基づき、地域の利用者の参画の元、議論を進めることが重要と考えている。併せて今後は地域住民を対象とする公共交通の勉強会も並行して進めたいと考えている。

(会長) 本協議会の構成員については、法律に規定があるのではないか。

(事務局) そのとおり。阪南市公共交通基本計画検討委員会の構成員も踏まえ、各委員に参画をお願いしている。

(会長) 今後議論すべき内容であると考えているが、公共交通に関して、ユーザー側は利便性を求める一方で、運営者側の視点としては経済性を求めざるをえない側面がある。

視点は変わるが、本市では今年度からSDGsの取組を推進する予定である。これは国連が提唱する考え方で、「持続可能な開発目標」といった意味である。公共交通に関しても、最終的に皆がどこまで満足できるかどうかはわからないが、本協議会では、専門家や交通事業者、市民等、様々な方にご提案いただきながら、今後も継続できる仕組みを見つけ出すことが重要であると考えている。

公共交通に限ったことではなく、人口減少、少子高齢化によりあらゆる分野で継続できることが困難となっている。市では扶助費の増加に伴い財政面でより厳しくなり、今まで維持できてきた行政サービスが出来なくなっている。そ

うした側面は行政だけでなく、民間事業者でも課題はお持ちだと考えるので、そうした意見を交えながら進めていきたい。  
鉄道事業者として何か意見をお願いしたい。

(委員) 当社ではトイレの美装化プロジェクトを進めており、尾崎駅に関しては、復旧と併せて前倒しを行う予定である。また、多機能トイレについても橋上駅舎上に設置できないか計画中である。工事施行にあたっては駅舎の構造上、一定障壁となる部分もあり、利用者の皆様方にはご迷惑をおかけする部分があるかもしれないが、ご理解をいただきたいと考えている。また、テナントについても、リニューアル工事を予定している旨聞き及んでいるので、尾崎駅を中心とした賑わいの創出について市と協力しながら努めていきたいと考えている。

(会長) 今後の進め方等について、学識経験者の視点からコメントをいただきたい。

(委員) 本市では自動車の分担率が非常に高く、一方で年齢別のトリップ数は府内平均より多い傾向にある。しかし、後期高齢者になればその傾向は逆転するため、高齢者になり自動車を運転できなくなると、一定外出しにくい環境であるということが感想である。その一方で、今後、自由目的における移動の割合が増加することを踏まえると、阪南市公共交通基本計画で掲げているように高齢者の外出機会の創出は、中心市街地の活性化も含め重要な取組になると考える。本協議会では公共交通の視点から高齢者の外出機会の創出を進めることが重要になると考える。

(会長) 行政側の委員からご意見等あればいただきたい。

(委員) 基本計画で全体的なビジョンは示されている。地域公共交通網形成計画では、計画期間について5年が基本となるため、5年間でできることを阪南市公共交通基本計画に記載している取組から抜粋し、地域公共交通網形成計画に記載していただくこととなる。どういったことをどう行うことで持続可能なものに繋がるのか、委員の皆様方で議論いただければと考える。

(会長) 交通事業者の視点からご意見等あればいただきたい。

(委員) 事務局の説明にもあったが、人口減少に伴い利用者が年々減少している状況である。当社は民間事業者であるため、過去から効率化を図るうえでは、収支の状況等を注視することが中心であったが、最近ではドライバー不足が深刻な問題である。同業他社では、ドライバー不足に伴い路線の廃止や減便に繋がっ

ていることもある。非常に苦しい状況であることは皆様方にもご理解をいただきたい。

(会 長) 全体を通じて最後に何かご意見があればいただきたい。

(委 員) 人口減少、少子高齢化に伴い都市ごとで独立できなくなるため、都市間連携の動きがある。一方で、少子高齢化は進展するものの、高齢化の定義が見直される可能性が高いものとも考える。そうすると、定年年齢が延びる可能性があり、延びた分だけ活動することによる移動量が増加するため、移動をサポートする交通事業者が必要となる。

また、交通事業者、介護職等の給与待遇が悪い傾向にあり、移動が必要となる方を支援する事業者の待遇を改善することが必要となると考える。我々はそこまで議論はできないが、単に維持するためだけの議論ではなく、将来の絵姿に向けて、色々な事をやっていけないかといった議論ができるようにならないといけない。

ヨーロッパでは通信技術を活用し新しいサービスが始まりつつあり、日本では、情報通信会社、自動車会社の連携だけで、サービスの提供が進むと、公共交通がどうなるのか心配となる部分がある。夢のあることも考えつつ、そこへ行くためにはこんな事をやったら良いのでは、といったご提案等も次年度以降の計画の事業の中に盛り込めたら望ましいと考える。

そのためには、協議会予算については事業評価をすべきだろうと考えるが、本市のコミュニティバスについて、利用者数は増加しているといった説明があったが、運賃収入等は事業費の約2割であり、約8割は税補てんしているため、民間事業者の視点では、運営は成り立たない状況である。しかし、約8割を税投入することによる成果として、他分野で効果が上がっているのであれば、単なる税補てんでなく、税の投資になると考える。そうした投資を協議会予算に入れたいと考えため、事業計画を皆さんと考えたい。

また、近隣自治体では、事業の成果が上がることにより当初予算をほとんど執行していない事例があった。しかし、そこで次年度予算を縮小させるのではなく、次の投資ができる事も考えつつ、将来に向けた色々な提案もいただけるようになれば望ましいと考える。

(会長) 他に意見はないか。なければ事務局にお返しする。

(事務局) それではこれで本日の会議を終了する。

以上。